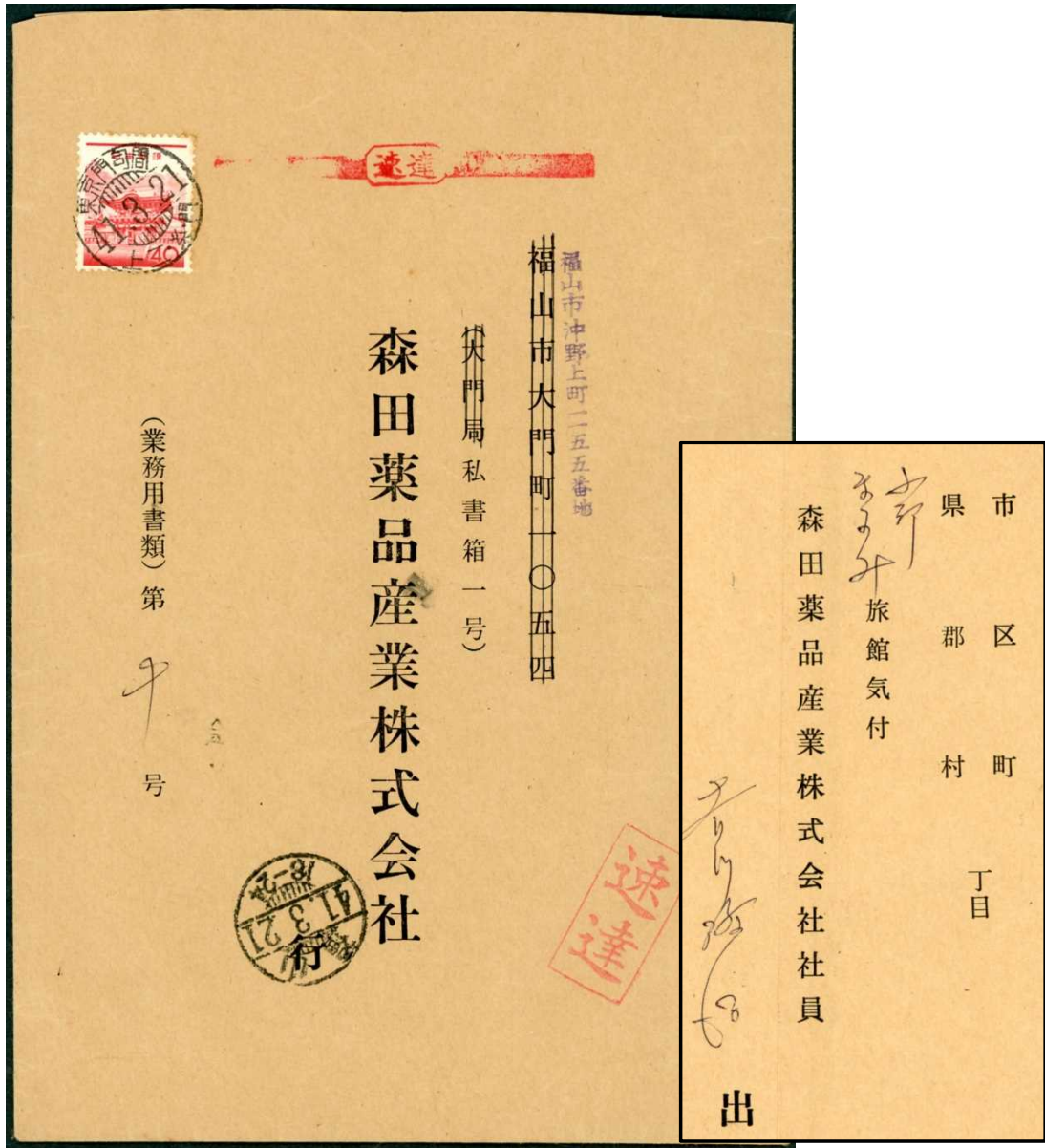


40円赤陽明門貼り大型封筒の速達便

永吉 秀夫



速達書状 東京門司間(鉄郵印) S41(1966).3.21 → 福山

40円陽明門は速達書状用として発行された普通切手で、1962年5月～66年6月の4年間以上にわたってこの用途に使用されました。鉄郵印が押されているといっても、特に取り立てて紹介するほどの価値もない郵便物ですが、ここで取り上げた理由はその封筒のサイズにあります。この封筒は、この年の7月以降は定形外のサイズとなる封筒です。定形郵便制度導入前の「大型封筒使用書状」としての意義がありそうです。

封筒の裏には右側のような記載があります。スマホもノートPCもない時代、こんな封筒を持たされて各地を渡り歩いていた社員が、定期的に本社に報告書を送ることを課せられていたのですね。